

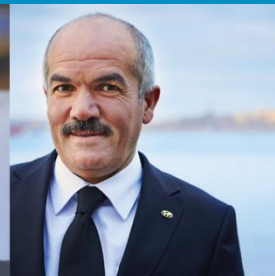
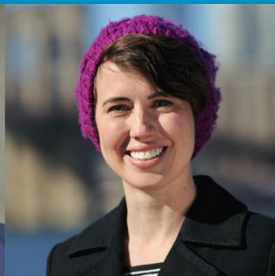
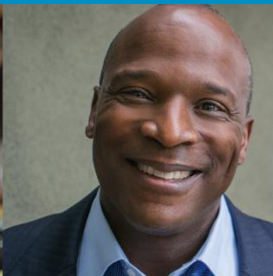


AGER 2015

Amway

Global Entrepreneurship Report

～起業家はいかにして、「起業家」となるのか？～



| | |
|------------------------------------|-------|
| • AGER2015 グローバル調査、日本独自調査について..... | 3 |
| • 調査概要 | 4 |
| • 調査結果サマリー | 5 |
| • 東出浩教教授による結果概説 | 6 |
| • グローバル調査結果 | 7-12 |
| • 日本独自調査実施のキーポイント | 13 |
| • 日本独自調査分析方法 | 14 |
| • 日本独自調査結果 | 15-31 |
| • おわりに | 32 |
| • 参考文献 | 33 |

AGER2015 グローバル調査、日本独自調査について

本年はグローバル調査に加え、日本独自の調査も実施

- 米国アムウェイは、人々の起業に対する意識を理解するために、年次調査を2009年から実施しています（英語タイトル Amway Global Entrepreneurship Report (AGER)）。調査は、2009年にドイツで始まり、その後世界各国に対象を広げ、2015年の本調査では44カ国、49,775名を対象に行いました。
- また、グローバル調査の結果を受け、本年は日本人の起業に対する意識をさらに理解するために、日本独自調査を実施しました。日本人の起業家精神の低さに注目し、日本人の価値観やメンタリティに関する質問を分析。本調査では、10代から40代までの男女1,039名を対象に行いました。

調査概要

グローバル調査

調査期間: 2015年5月～8月

調査対象者: 14～99歳

対象国: オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、ブルガリア、カナダ、中国、コロンビア、クロアチア、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、イギリス、ギリシャ、ハンガリー、インド、アイルランド、イタリア、日本、韓国、ラトビア、リトアニア、マレーシア、メキシコ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロバキア、スロベニア、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、タイ、トルコ、ウクライナ、アメリカ、ベトナム 計44カ国

*中国、コロンビア、インド、メキシコ、南アフリカ、タイ、ベトナムの調査対象者は、都市圏在住の人のみ

調査方法: 対面調査/電話調査

調査機関: Gesellschaft fuer Konsumforschung (GfK) Nuremberg(ドイツ)

調査監修: ミュンヘン工科大学経営学部 Isabell M. Welp博士・戦略組織担当教授

アドバイザー・コミッティーメンバー: 早稲田大学ビジネススクール 東出浩教授



Isabell M. Welp博士
戦略組織担当教授

日本独自調査

調査機関: 2015年9月

調査対象: 10代～40代までの社会人および大学生・大学院生の男女計1,039名
(男性:520名、女性519名)

調査方法: オンライン調査

調査機関: 株式会社マクロミル

調査監修: 東出 浩教/早稲田大学ビジネススクール教授



東出浩教
早稲田大学ビジネススクール
教授

調査結果サマリー

2015年グローバル調査結果から見た日本の特徴

- 起業がとても遠い存在となっている日本

日本人の起業に対する意識は、昨年に引き続き調査対象国(44カ国)中、最下位という結果となりました。起業への関心・意識が無いだけでなく、自分自身に起業の能力があるとする日本人はたったの8%と、起業には高い能力が必要だと考えている日本人が多くいるという結果になりました。

- 年々低下する起業への姿勢

昨年は75%の日本人が起業に対してポジティブな姿勢をもっており、世界平均と変わらない数値でしたが、今年は63%と12%も低下し、日本人の間で起業へのネガティブな姿勢が強まっています。

日本独自調査結果から見た、日本人における起業の特徴

- 日本の起業家はスペシャリストではなく、オールラウンダー

起業意識の高いグループは、何かひとつの能力が突出しているのではなく、様々な能力をバランスよく持ち合わせているという結果になりました。

- 自身の抱えるメンタルブロックが、起業へのブレーキをかけている

起業意識の低い人々のパーソナリティーの8割をメンタルブロック(見えない精神的な壁)が占めています。起業意識の高いグループのメンタルブロックが占める割合は15%と対照的な結果となりました。

- 幸福度の高い起業志向群

起業意識の高いグループは、そうでないグループに比べ3倍以上も「幸せである」と感じています。

- 海外経験が、起業志向に大きく影響する

海外留学や居住の経験がある人はそうでない人に比べ、起業意識が10%以上も高いという結果になりました。

東出浩教教授(早稲田大学ビジネススクール)による結果概説

日本の経済政策が起業家精神を縮小させた

今回の調査結果で最も重要な推論は日本の経済政策が、非常に強くネガティブに起業家精神に影響したということです。日本の起業に対するポジティブな姿勢は昨年と比べ10%も減少し、世界およびアジア平均を大きく下回りました。近年特に輸出企業が、過去最高利益を更新する一方、国内の中小企業は賃金低下の傾向が続いています。このような状況から、社会が起業家に対して肯定的であると回答した日本人が減少し、公務員を含めたより安定した仕事に就くことを望んでいると考えられます。

安定した仕事によってワークライフバランスが犠牲されることも

日本人にとって「安定した生活」の価値は「独立」よりも重要に感じられているようです。日本人は一度、以前より安定した仕事に就くと、ワークライフバランスを犠牲にしてしまいがちになります。その結果が、日本人が独立をしてビジネスを始める理由として「家庭、余暇、仕事のバランス」や「自己実現、自分の考えを実現する可能性」を挙げる割合の減少に表れています。この傾向は、上記に述べた経済政策の副産物のひとつとも言えるでしょう。

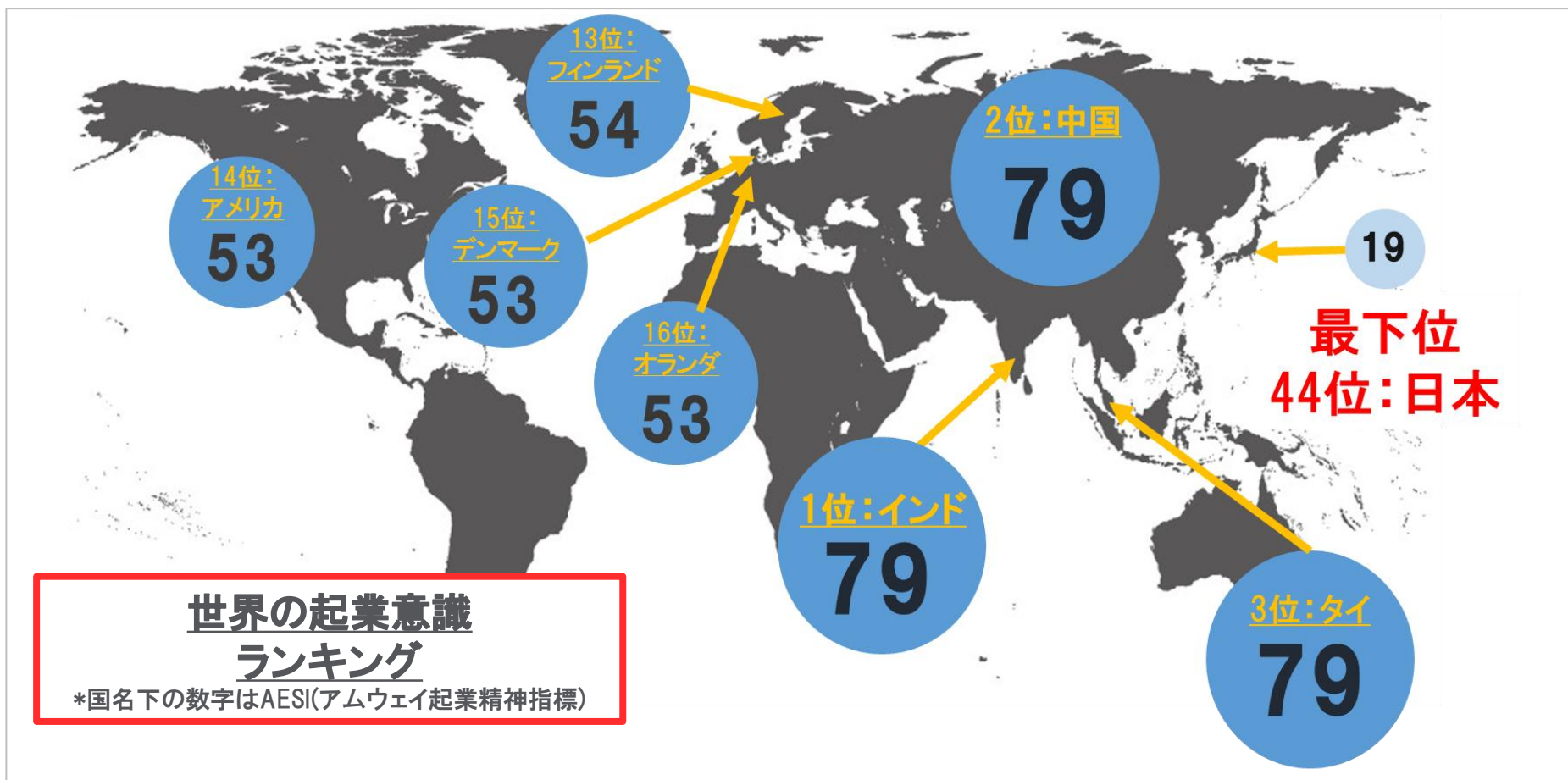
より自己能力を肯定できる社会にするために

起業に対する自己能力を肯定する日本人の割合が異常に低いことは、仲間からの圧力に対して敏感であることを求められたり、人と違うことに否定的で、挑戦よりも失敗を恐れる日本の文化や教育システムに原因があるのではないかと推測されます。この状況を打破するためにも、日本社会は全てのチャンスに対してオープンであるべきです。また日本人の特徴として見られるリスク回避型の姿勢は、起業家や自営業に優しい失業保険政策を打ち出すことで、減少に向かうことが予想されます。

【グローバル調査】日本の起業意識※は、世界44カ国で最下位

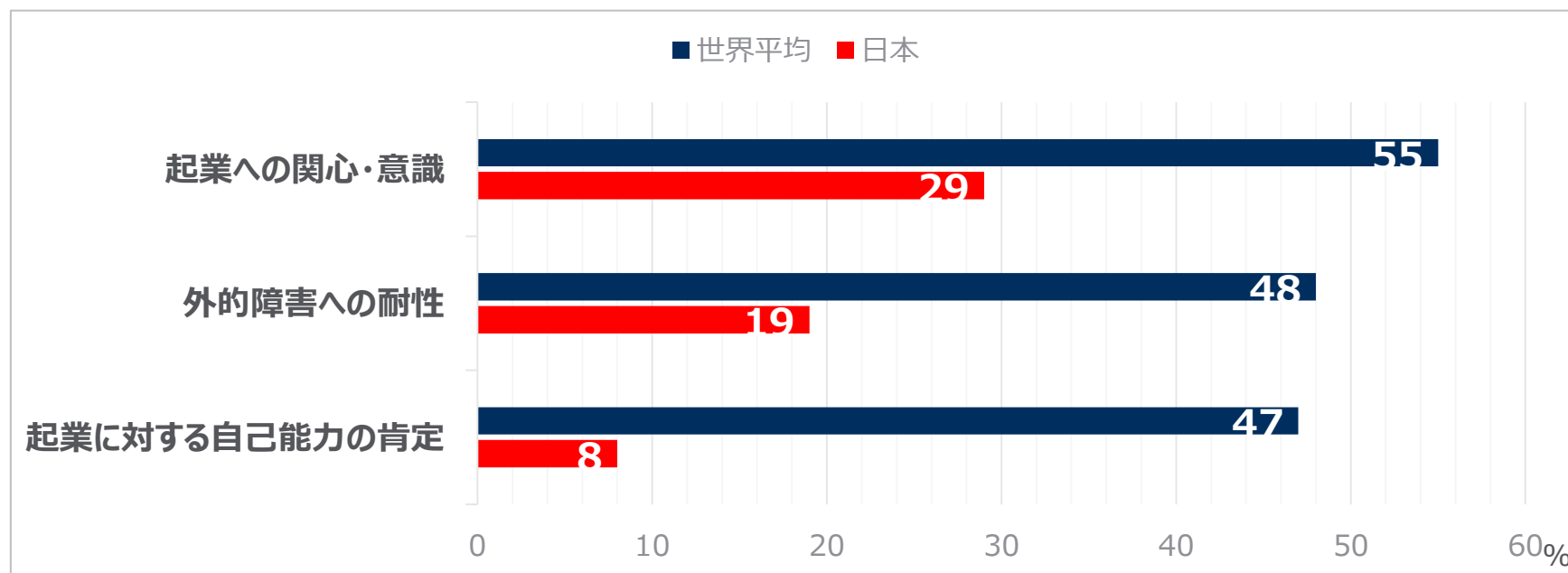
※起業意識=AESI(Amway Entrepreneurial Spirit Index アムウェイ起業精神指標)より算出。
(下記の質問事項に対して、「はい」と答えた人の割合の平均値)

1. 外的障害への耐性:「家族や友人によって、起業を思いとどまることはない」
2. 起業に対する自己能力の肯定:「自分には起業に必要なスキルやリソース(財源など)がある」
3. 起業への関心・意識:「起業は、自分のキャリア形成にとってよい機会になる」



【グローバル調査】日本人の起業モチベーション

- 起業のモチベーションを表す下記3つの項目すべてにおいて、日本は世界平均とはかけ離れており、日本人の起業へのモチベーションの低さが際立っている。
- 特に「起業に対する自己能力」は世界の約半数が肯定しているのに対し、日本人はたったの8%しか肯定しておらず、その差は5倍以上である。



<質問>

起業への関心・意識：「起業は、自分のキャリア形成にとってよい機会になる」

外的障害への耐性：「家族や友人によって、起業を思いとどまることはない」

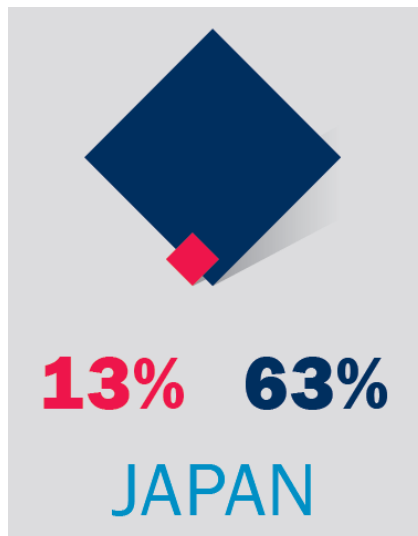
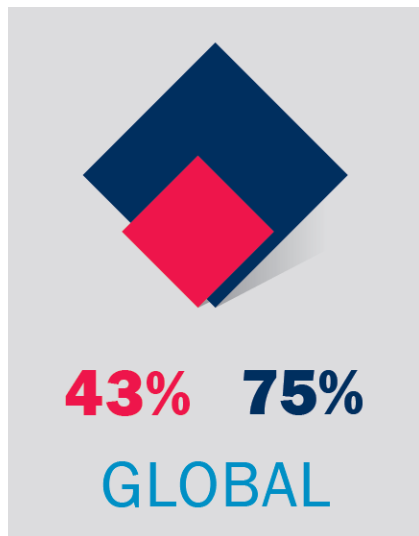
起業に対する自己能力の肯定：「自分には起業に必要なスキルやリソース（財源など）がある」

AESI値

| 世界平均 | 日本 |
|-----------|-----------|
| 51 | 19 |

【グローバル調査】日本と世界の「起業への姿勢」と「起業ポテンシャル」

- 日本人の「起業へのポジティブな姿勢」は、昨年よりも12%ダウン
- 「起業ポテンシャル」は、昨年同様低く(13%)世界平均と大きな隔たりがある



[質問]
起業家精神についてどう感じますか?また、
自分自身が起業することを想像できますか?

◆ 起業へのポジティブな姿勢
◆ 起業ポテンシャル

| | | 2014 | 2015 |
|-------------------------------|------|------|------|
| 起業へのポジティブな姿勢 | 世界平均 | 75 % | 75 % |
| | 日本 | 75 % | 63 % |
| 起業ポテンシャル (自身が起業することを想像できる) | 世界平均 | 42 % | 43 % |
| | 日本 | 15 % | 13 % |



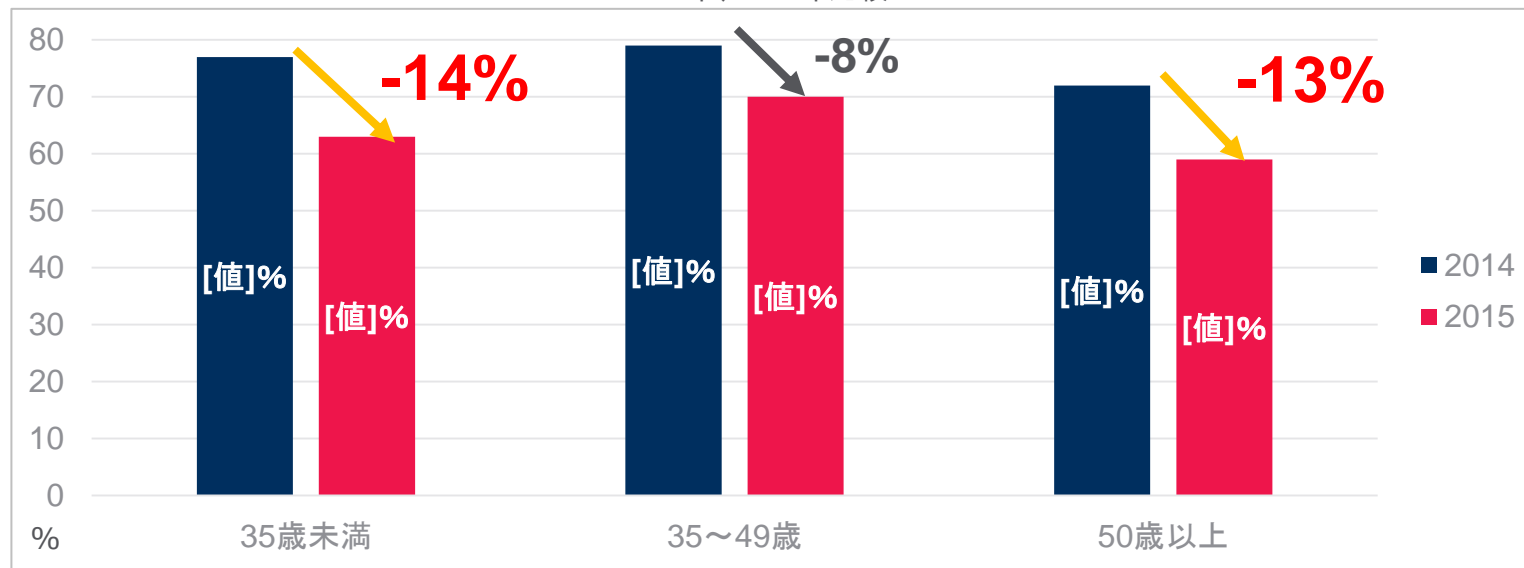
【グローバル調査】年齢別に見た起業への姿勢

- 起業へのポジティブな姿勢は、35～49歳にピークを迎えている。
- 前年の調査と比較して全世代でポジティブな姿勢を持つ日本人の割合に減少が見られたが、特に35歳以下(-14%)と50歳以上(-13%)に大きな減少傾向が見られる。

| | | 2014 | 2015 |
|--------------|------|------|------|
| 起業へのポジティブな姿勢 | 世界平均 | 75 % | 75 % |
| | 日本 | 75 % | 63 % |

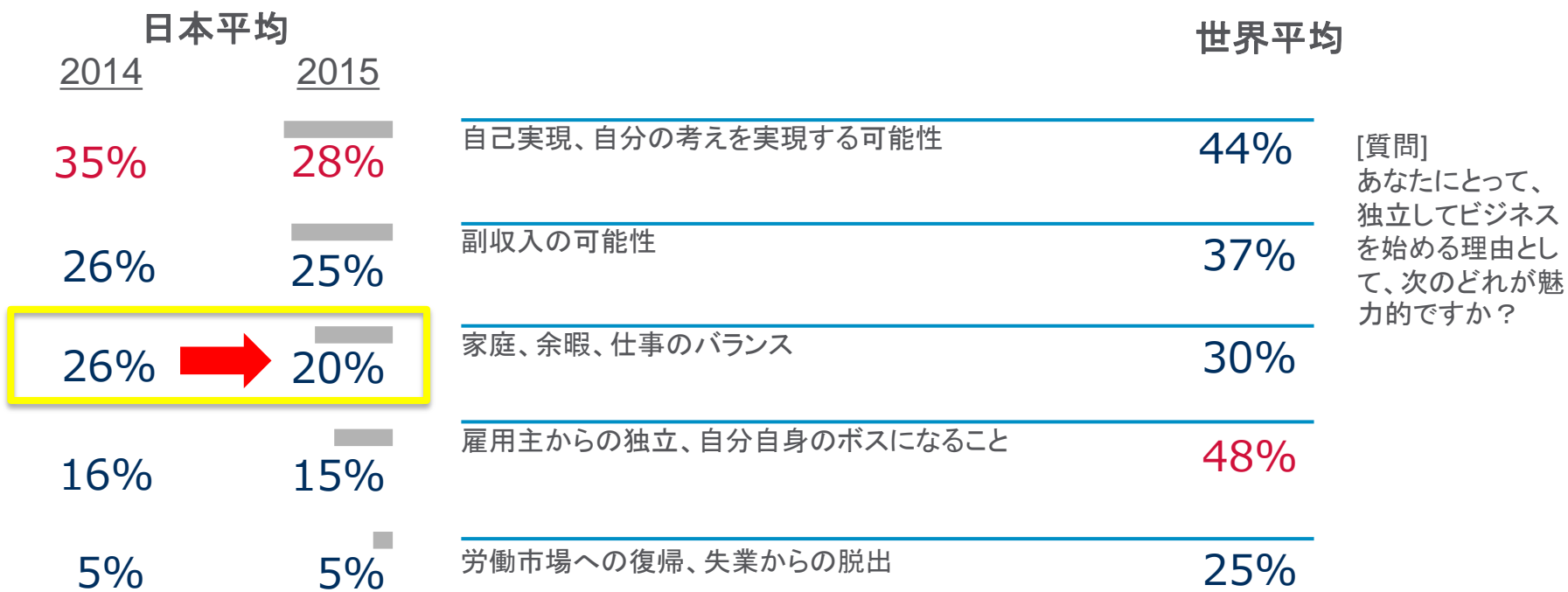
日本人の起業に対するポジティブな姿勢(年齢別)

2014年、2015年比較



【グローバル調査】独立してビジネスを始める理由

- 独立してビジネスを始める理由は、昨年と変わらず「雇用主からの独立」が世界およびアジア平均では第1位(48%)となっている。一方、日本人の最大の理由も昨年と変わらず「自己実現」であり、「独立」を理由にあげる人はわずか15%であった。
- 2014年は26%が独立の理由として「家庭、余暇、仕事のバランス」をあげていたが、今年は6%減少の20%にとどまり、起業の重要な要素ではなくなっている。



【グローバル調査】日本の社会環境と起業

- 自国の社会は起業に肯定的かとの質問に対して、世界平均は昨年より1%多い、50%の人が肯定的と回答。
- 一方、日本人はわずか30%の人しか肯定的に感じておらず、昨年よりも10%減少した。



日本独自調査実施のキーポイント

グローバル調査における日本の特徴

1. 日本社会の「起業家精神」は、まだ未成熟である
2. 昨今活発な起業支援政策にもかかわらず、日本人の起業に対する姿勢はより消極的になっている
3. 日本社会が「起業しやすい社会」だと感じる人も減少している

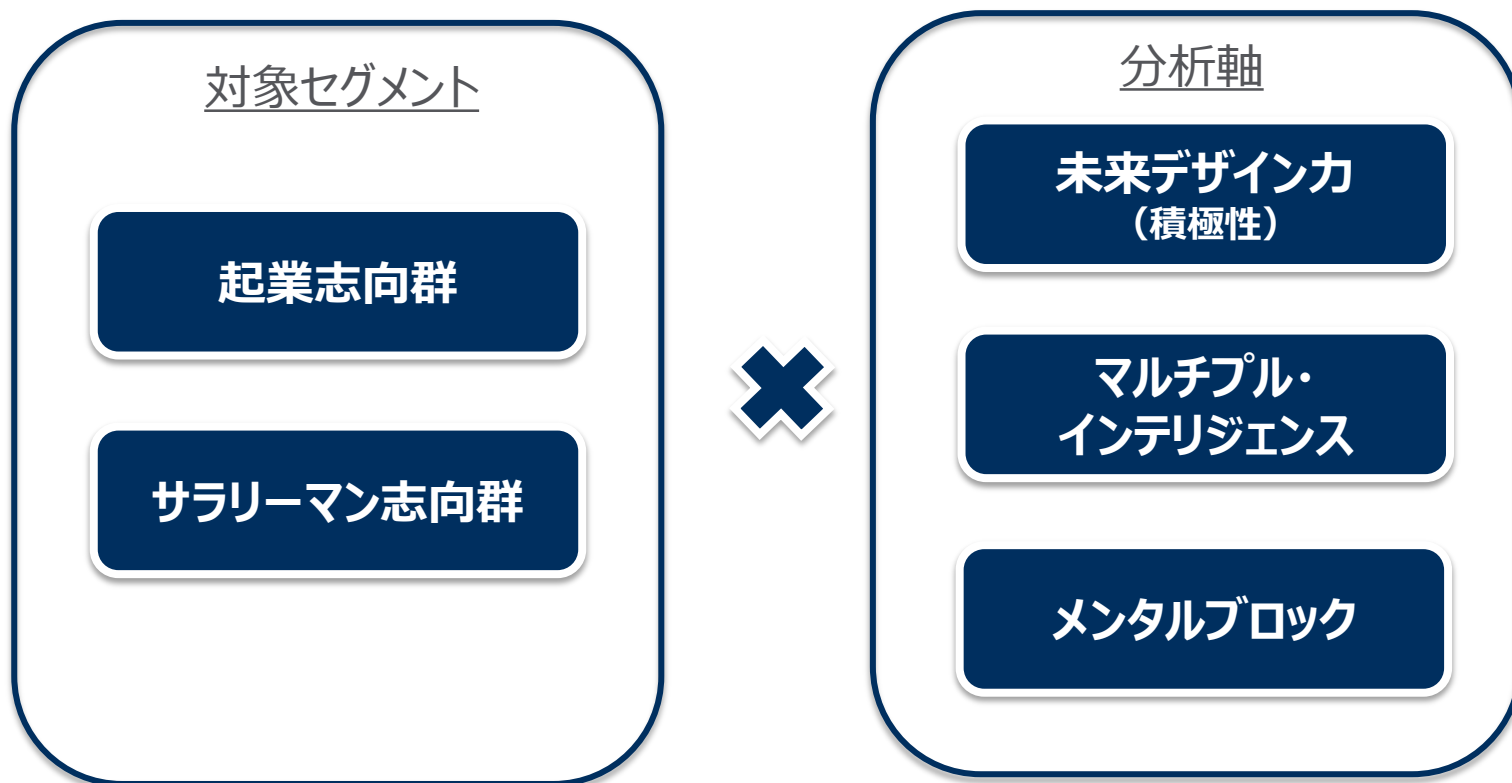


日本独自調査実施のキーポイント

日本社会ではなぜ、「起業家精神」の活性化にエンジンがかからないのか？
日本で「起業家が増える」ということは、どんな日本人が増えるということなのか？

【日本独自調査】分析方法

- 社会人(20代~40代男女)624人、大学生・大学院生(文系・理系男女)415人を対象に起業意識度の違いから「起業志向群」と「サラリーマン志向群」に分類。
- 調査対象を起業意識度の違いから「起業志向群」と「サラリーマン志向群」に分類。
- 「起業志向群」「サラリーマン志向群」の価値観やメンタリティを、「①未来デザインマインド(積極性)」、「②マルチプル・インテリジェンス(多重知能)」、「③メンタルブロック」の3つの軸で分析。



【日本独自調査】「起業志向群」、「サラリーマン志向群」の定義

- 回答者には起業意識に関する下記質問に「非常に当てはまる」「当てはまることが多い」「やや当てはまる」「どちらとも言えない」「あまり当てはまらない」「当てはまらないことが多い」「全く当てはまらない」の7段階で回答。

回答がすべて

- ・ 「非常に当てはまる」「当てはまるが多い」 → 「起業志向群」に分類
- ・ 「当てはまらないことが多い」「全く当てはまらない」 → 「サラリーマン志向群」に分類

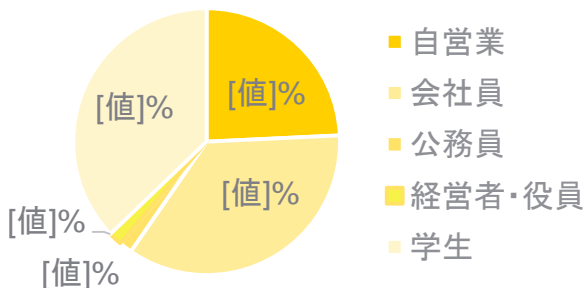
-
1. 起業することは、不利な点よりも有利な点が多いと思う
 2. 自分にとって、起業家としてのキャリアは魅力的だ
 3. もしチャンスと資金さえあれば、自分で始めたいと思う
 4. 起業家になることによって、自分は高い満足が得られると思う
 5. さまざまな選択肢がある中で、自分は敢えて起業家になる道を選びたいと思う
-

【日本独自調査】起業志向 vs サラリーマン志向 パーソナリティの特徴的な違い

起業志向群



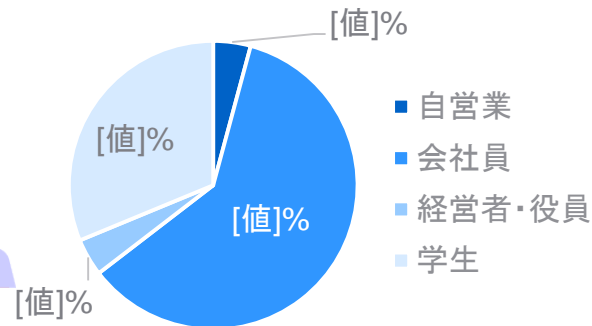
N=62



サラリーマン志向群




N=48



- ✓ 視野が広く、多角的
- ✓ 自分の将来は自分で設計・計画する
- ✓ 成功するまで様々なアプローチを試す
- ✓ 成功の可能性の大小に関わらず、自分が信じるものであれば突き進む
- ✓ 知らない人ばかりの中でも簡単に話し相手を見つけられる
- ✓ 平凡な日々ですら奇跡的なことに満ち溢れていると思う
- ✓ 自然保護の意識が高い

- ✓ 視野が狭く、近視眼的
- ✓ 新しいアイデアを生み出す知識や手法が自分には無いと感じている
- ✓ 失敗やリスクを恐れる
- ✓ 他人に反対されると自分の考えを諦めてしまう
- ✓ 違うタイプの人との交流が苦手
- ✓ 日常の出来事や自分がどう感じたか、振り返ることはあまりない
- ✓ 環境保全のために、どのように自身が消費すべきかそれほど敏感ではない



分析軸①
未来デザイン力
(積極性)

【日本独自調査】①未来デザイン力(積極性)分析結果

起業志向群は、自分の信じるアイデアを実現する意志と行動力が高い。

- 起業志向群は全体的に高い積極性を持っている。
- 起業志向群の約6割の人が自分が信じる未来をなんとしてでも実現させようとする意思を持ち、またその方法を探求しているのに対し、サラリーマン群では約2割の人しか、そのような積極性を持っていない。

■ 下記のパーソナリティ(積極性)に関する項目で自分自身に「非常に当てはまる」「当てはまることが多い」と回答した割合

成功の可能性の大小に関わらず、自分が信じるものであれば実現させる努力をする



物事を実行するときに、更に良い方法がないか探求しているほうだ



良いアイデアだと思ったら、何がなんでもやり遂げるタイプだ



他人の反対を受けても、自分の考えを貫くタイプだ



自分はチャンスを見出す能力に優れていると思う




自分の好みに合わなかったり、意に沿わないものがあれば、自分のやり方を押し通すことが多い



0 10 20 30 40 50 60 70 80 %

■ 起業志向群 ■ サラリーマン群



分析軸②
マルチプル・インテリジェンス
(多重知能)

【日本独自調査】②マルチプル・インテリジェンス(多重知能)各知能の定義

各知能の定義

| | |
|-----------------|---|
| A 言語的知能 | 話をする、文章を書くなど、言葉を使いこなす知能。 |
| B 論理数学的知能 | 数字の意味をとらえて操作する知能。何かを明快に論証する知能。 |
| C 空間的知能 | 空間および空間の中に含まれるものを的確に認識する知能。その認識を自由に転換する知能。 |
| D 身体運動的知能 | 自分の考えや気持ちを、身体を使って表現する知能。手先を器用に使って取り組む知能。 |
| E 音楽的知能 | さまざまなメロディ・リズム・ピッチ・音質などの認識・識別する知能。音を創造・表現する知能。 |
| F 対人的知能 (社会的知能) | 他人の気持ちや感情、動機などを見分ける知能。 |
| G 内省的知能 (個人内知能) | 長所・短所を問わず、自分自身について正確に把握し、その上で行動を起こす知能。自分の内面を理解する力、自身の日常的な感情を表す力、さまざまな感情を区別する力、そしてこの知識を文字で、もしくは芸術を通じて表現することができる能力。 |
| H 実存的 (哲学的) 知能 | 哲学する知能。人生の意義、死の意味、物理的・心理的な世界の究極の運命、人を愛したり芸術作品に没頭するなどの深遠な経験といった、人間的な条件の実存的特徴との関係に自らを位置付ける能力。 |
| I 博物的知能 | 身のまわりにあるさまざまな事象を認識し、違いや共通点を見つける知能。 |

参考

<https://knowledgeforexcellence.wordpress.com/2015/07/24/>

http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/affiliate/misawa/download/MISAWA_study1.pdf

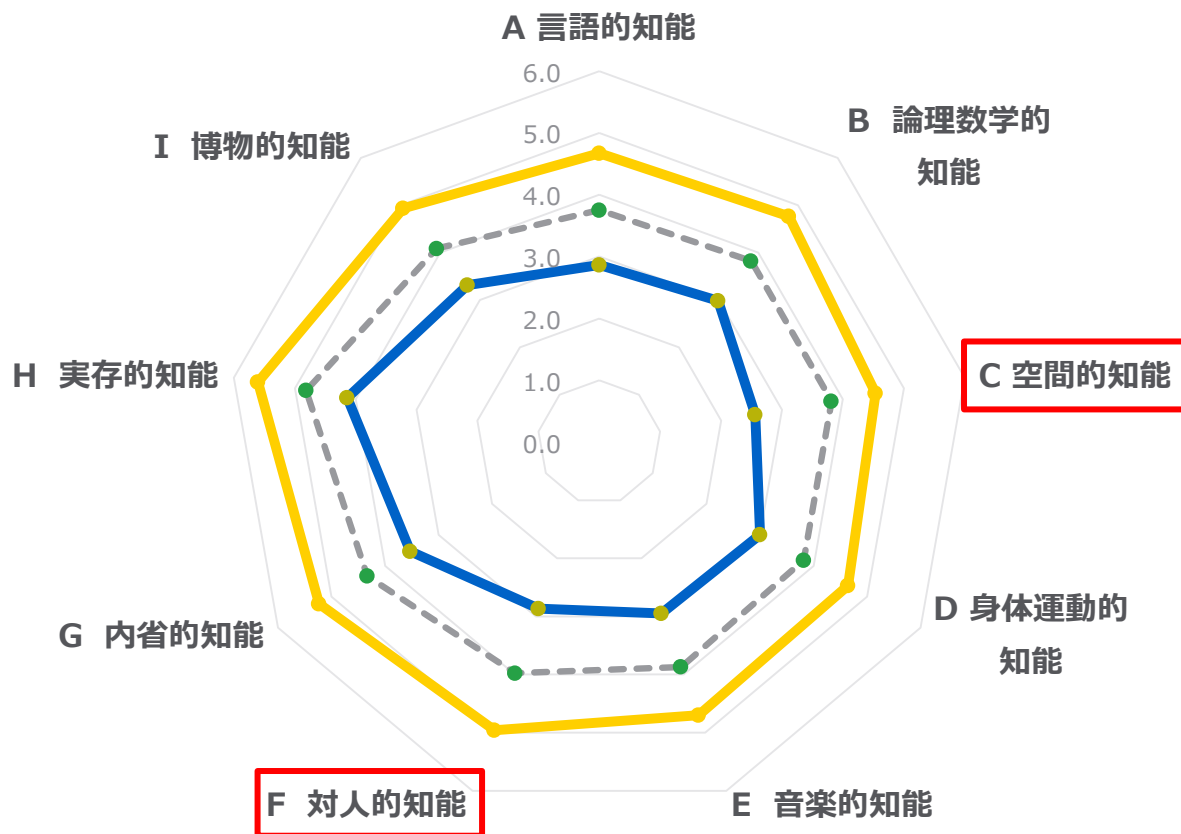
【日本独自調査】②マルチプル・インテリジェンス(多重知能)に関する質問事項

| 能力 | 質問事項 |
|-----------------|---|
| A 言語的知能 | <ul style="list-style-type: none"> 書くことは私にとって自己表現するための自然な方法である 最近、私は何か特に誇りに思うもの、もしくは他の人から認められたものを書いた |
| B 論理数学的知能 | <ul style="list-style-type: none"> 学校で私は数学や物理学、科学が得意だった 私は複雑な問題を扱ったり解決することができる 私は論理的思考を必要とするゲームや問題解決が得意である |
| C 空間的知能 | <ul style="list-style-type: none"> 学校で幾何学や空間認知を伴う課題は私にとって方程式を解くことより簡単だった 私にとって複雑で多元的なパターンを概念化することは簡単である 私は鳥の視点から景色がどのように見えるかを想像できる |
| D 身体運動的知能 | <ul style="list-style-type: none"> 私は編み物や木工細工などを簡単に作れる 私は手工芸が得意である |
| E 音楽的知能 | <ul style="list-style-type: none"> 私は一度か二度聞いたら、かなり正確にそれを歌ったり口笛で吹いたりできる 私は音楽を聴いているとき、使われている楽器やメロディがわかる |
| F 対人的知能 (社会的知能) | <ul style="list-style-type: none"> 知らない人ばかりの仲でさえ、私は簡単に誰か話す相手を見つけることができる 私は違うタイプの人とすぐに仲良くできる |
| G 内省的知能 (個人内知能) | <ul style="list-style-type: none"> 私は頻繁に私自身のフィーリングや感情について考え、なぜそう感じたのかの理由を探す 私は定期的に生活での重要な問題を振り返ることに時間を費やす |
| H 実存的 (哲学的) 知能 | <ul style="list-style-type: none"> 忙しい日々の中でも、じっくりと考えることは大切だと気づいている 平凡な日々ですら、奇跡的な物事で満ち溢れている 私にとって他人とのんびり過ごすなど静かなときを共有するのは大切である |
| I 博物的知能 | <ul style="list-style-type: none"> 自然保護は私にとって重要である 私は自然保全のために、どのように消費するべきか考えている |

【日本独自調査】②マルチプル・インテリジェンス(多重知能)分析結果

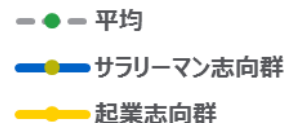
起業志向群は、全体的にバランスの取れたインテリジェンス(知能)を高く持ち合わせている。

- 起業志向群は、バランスよく9つのインテリジェンスを成長させている。
- 一方、サラリーマン志向群のインテリジェンスはいずれもが低レベルに留まっている。
- 特に、対人的知能、空間的知能においては起業志向群とサラリーマン志向群の間に大きな差が見られる。



前ページのマルチ・プルインテリジェンスに関する項目を下記のようにポイント分けし、起業志向群とサラリーマン志向群の平均値を算出

- 非常に当てはまる: 7点
- 当てはまることが多い: 6点
- やや当てはまる: 5点
- どちらとも言えない: 4点
- あまり当てはまらない: 3点
- 当てはまらないことが多い: 2点
- 全く当てはまらない: 1点





分析軸③ メンタルブロック

【日本独自調査】③ メンタルブロック:定義および質問事項 I

- 下記項目に対して、「非常に当てはまる」「よく当てはまる」「まあまあ当てはまる」「どちらとも言えない」「あまり当てはまらない」「当てはまらないことが多い」「全く当てはまらない」の7段階で回答。

| 壁カテゴリー | 定義および実際の質問項目 |
|---------|---|
| 認識・思考の壁 | <p>物事や問題を先入観や固定概念にとらわれた見方しかできず、多様な観点からの考察や、水平思考することを妨げる意識</p> <ul style="list-style-type: none"> • 視野が狭く、何かほかに別の方法を我慢強く考えることが苦手だと思う • 新しい物事に挑戦したり、興味を持つことは少ないほうだ • せっかく自分にやってきたチャンスに対して、大したことがないと思ってしまったり、新しい方法を試そうと思わないことが多い • 先入観が強く、物事を違った視点から見るのが苦手だと思う • 空想や回想、遊び心、ユーモアなどはあまり好まないほうであると思う • 新しいアイデアを考え出すよりも、今ある選択肢の中から物事を判断するほうが好きだと思う • 自分自身に対する期待や、他人からの期待以上のことをしようと思わない |
| 共感・協働の壁 | <p>外的環境や物理的環境に不利な条件があると、自身を孤立したポジションに置いてしまい、それ以上のネットワーキングやコミュニケーションにより他者と共感・協働する動きを妨げる意識</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分は周囲の人々の助けを、得られていないと思う • 現実と理想の区別がつかなくなることもあるほうだ • 自分を助けようとしてくれる人がいても、信用できないと思うことがある |

【日本独自調査】③ メンタルブロック:定義および質問事項Ⅱ

- 下記項目に対して、「非常に当てはまる」「よく当てはまる」「まあまあ当てはまる」「どちらとも言えない」「あまり当てはまらない」「当てはまらないことが多い」「全く当てはまらない」の7段階で回答。

| 壁カテゴリー | 定義および実際の質問項目 |
|----------|---|
| アウトプットの壁 | <p>自身の思考やアイデアを表現して他者に伝えることを妨げる意識</p> <ul style="list-style-type: none"> • 物事を表現して伝える力（書いたり、話したり、描いたりするスキル）が弱いと感じることがある • 新しいアイデアを生み出す手法などの知識はあまり持ち合わせていない |
| 「正解」の壁 | <p>既知の理屈や事実から「正解」と判断できる領域でしか活動できず、未知の領域を自ら開拓することを妨げる意識</p> <ul style="list-style-type: none"> • 感情や直感、好みよりも、根拠や理屈、数字を重視するほうであると思う • 大切な決断は、分析的思考によってなされるべきだと思う |
| 発想力の壁 | <p>自身の発想やアイデアが他者に批判されるのではないかという感情から、自由な発想を妨げる意識</p> <ul style="list-style-type: none"> • 長時間必死に考えた後、リラックスしているときにひらめく体験はあまりない • 集中しすぎて周りが見えなくなるような経験は少ない |
| 失敗への恐れ | <p>失敗することや、そのリスクを負うことを学ぶチャンスと考えず、可能な限り避けようとする意識</p> <ul style="list-style-type: none"> • 失敗やリスクを恐れるほうだ |

【日本独自調査】③ メンタルブロック 分析結果

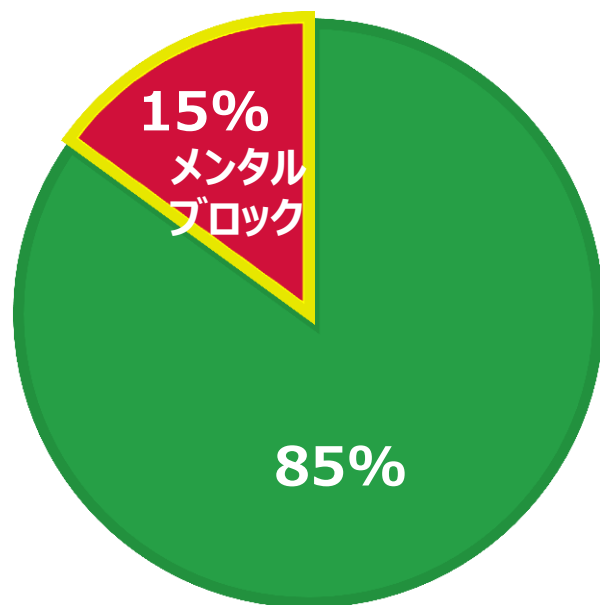
サラリーマン志向群はメンタルブロックだらけ!?

- 起業志向群ではメンタルブロックが占める割合は15%のみ。
- 一方、サラリーマン志向群では、パーソナリティ上位20項目のうちメンタルブロックが8割を占める。

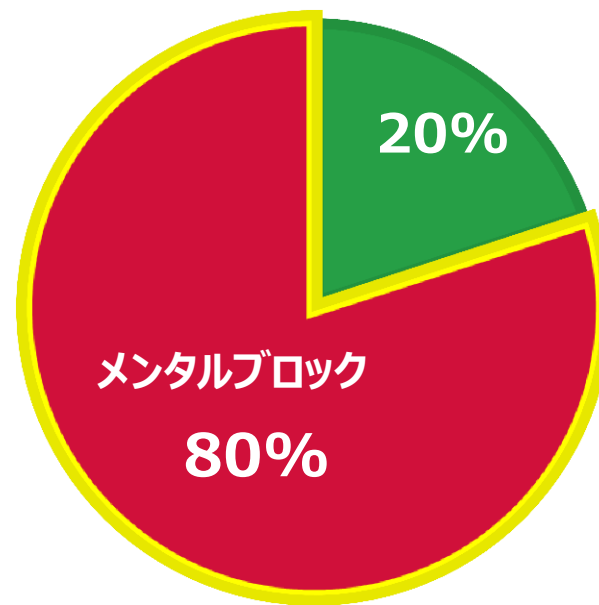
■ パーソナリティに関する項目で「非常に当てはまる」「よく当てはまる」を選択した割合が高かった20項目中、メンタルブロックが占める割合を算出



起業志向群



サラリーマン志向群



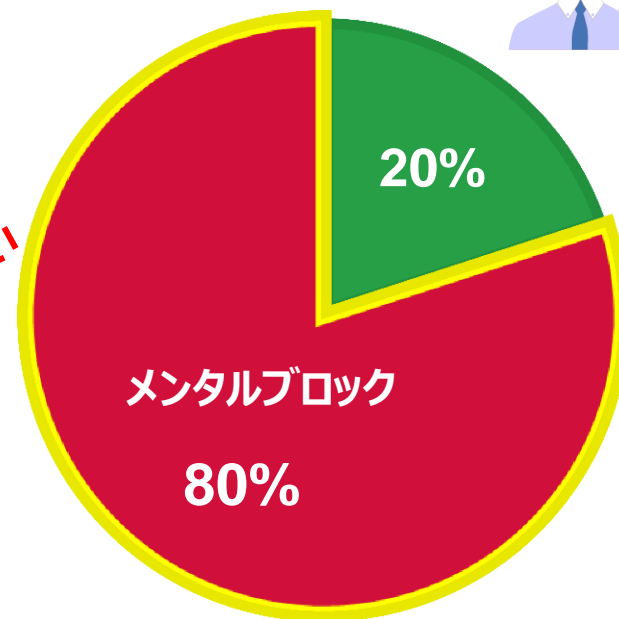
【日本独自調査】③ メンタルブロック 分析結果（サラリーマン志向群）

- ・ サラリーマン志向群の抱えるメンタルブロック1位は「失敗への恐れ」と、未来デザイン力同様、消極的なパーソナリティを表す結果となった。
- ・ 2位、3位には「アウトプットの壁」と「認識・思考の壁」が占めており、日本のサラリーマン志向群は多角的な視点から物事を見ることが苦手で、また自身の思考を表現することも苦手である。



サラリーマン志向群の抱えるメンタルブロックランキング

- 1位：**
- ・ 失敗やリスクを恐れる（46%）（**失敗への恐れ**）
- 2位：**
- ・ 新しいアイデアを生み出す知識や手法などを持ち合わせていないと感じている（25%）（**アウトプットの壁**）
- 3位：**
- ・ 自分自身に対する期待や、他人からの期待以上のことをしようと思わない（23%）（**認識・思考の壁**）
 - ・ 新しいアイデアを考え出すよりも、今ある選択肢の中から物事を判断するほうが好きだと思う（23%）（**認識・思考の壁**）
 - ・ 物事を表現して伝える力（書いたり、話したり、描いたりするスキル）が弱いと感じることがある（23%）（**アウトプットの壁**）



【日本独自調査】③ メンタルブロック 分析結果（起業志向群）

- メンタルブロックがパーソナリティ上位20位に占める割合は少ない起業志向群も、「正解の壁」や「発想力の壁」は約半数の抱えるブロックとなっている。

起業志向群の抱えるメンタルブロックランキング

1位：

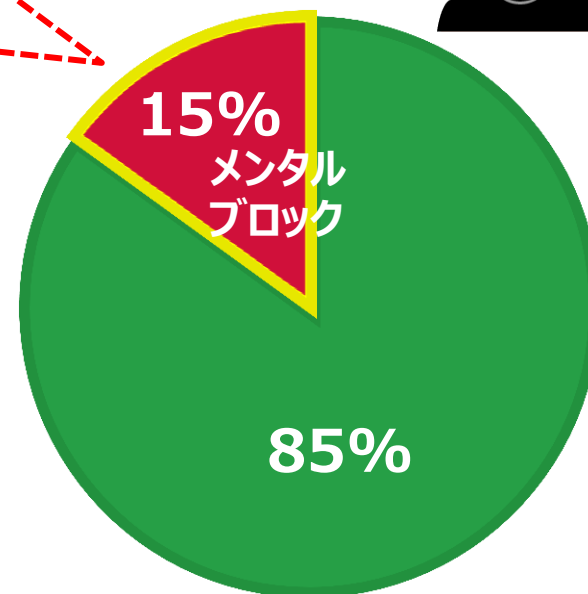
- 大切な決断は、分析的思考によってなされるべきだと思う (53%) **(正解の壁)**

2位：

- 集中しすぎて周りが見えなくなることが多い (47%) **(発想力の壁)**

3位

- 自分を助けようとしてくれる人がいても、信用できないと思うことがある (39%) **(共感・協働の壁)**



参考：起業志向群の持つ未来デザイン力 & マルチプル・インテリジェンスランキング

1位：

忙しい日々の中でも、じっくりと考えることは大切だと気づいている **(実存的知能)**

2位：

私は頻繁に私自身のフィーリングや感情について考え、なぜそう感じたのかの理由を探す **(内省的知能)**

3位：

私にとって他人とのんびり過ごすなど静かなときを共有するのは大切である **(実存的知能)**

【日本独自調査】④ 起業意識と幸福度の関係

起業家は幸福度が高い？

- ・ 起業志向群の約半数は自身が「幸せである」と評価。サラリーマン志向群の3倍にあたる46.8%。
- ・ サラリーマン志向群では、「不幸である」人(16.7%)が「幸せである」人(14.6%)よりも多数存在する。起業志向群の3倍に相当。

| | 全体平均 (%) | サラリーマン志向群 (%) | 起業志向群 (%) |
|--|-------------|------------------|--------------|
| 幸せである  | 24.2 | <u>14.6</u> | <u>46.8</u> |
| どちらかといえば幸せである | 59.6 | 52.1 | 38.7 |
| どちらかといえば不幸である | 11.9 | 16.7 | 9.7 |
| 不幸である  | 4.3 | <u>16.7</u> | <u>4.8</u> |

【日本独自調査】⑤ 海外経験が「起業意識」に及ぼす影響

- 起業意識を左右する因子として、「海外留学・居住の経験」の影響が顕著にみられた。

| | 全体平均 | 海外留学・居住 経験者 | 海外留学・居住 未経験者 |
|--------|-------|----------------|-----------------|
| 起業意識あり | 21.9% | <u>29.7%</u> | <u>19.5%</u> |

- 父親の職業
- 性別
- 年齢
- 居住地
- 専攻（文系、理系） *学生のみ





今回の調査では、これら因子の起業意識への影響は見られなかった

【日本独自調査】⑤ 海外経験と幸福度の関係

海外での経験がある人が最も幸福度が高く、不幸度はさらに低い

- 海外での居住経験および留学経験のある人の約3割は自身が「幸せである」と評価。「どちらかといえば幸せである」と答えた人(59.3%)と合わせると91.3%となり、3グループの中でもっとも幸福を感じている。
- また、「不幸である」と答えた人は約3%で、起業志向群よりも低い数値に。

| | 全体平均 (%) | サラリーマン志向群 (%) | 起業志向群 (%) | 海外経験有群 (%) | |
|---|----------|---------------|------------------------|-------------|------|
| 幸せである  | 24.2 | <u>14.6</u> | <u>46.8</u> | <u>32.0</u> | 91.3 |
| どちらかといえば幸せである | 59.6 | 52.1 | 38.7 | 59.3 | |
| どちらかといえば不幸である | 11.9 | 16.7 | 9.7 | 5.8 | |
| 不幸である  | 4.3 | <u>16.7</u> | <u>4.8</u> 1.6倍 | <u>2.9</u> | |

おわりに

起業家はいかにして、「起業家」になるのか？

現在、望むライフスタイルを手に入れるために起業家に転身する人がかつてないほど増えています。さらに、社会的および経済的環境の変化に伴い、人々が自ら起業する理由も変わってきています。アムウェイではこの数年間、起業家のモチベーションや願望に関する理解を深めるために調査を行い、「アムウェイ・グローバル起業精神レポート」を発表しています。

2015年度の調査は、世界44カ国約50,000人を対象に行われ、過去最大規模となりました。本年度は「アムウェイ起業家精神指標」を導入し、「起業家精神を明らかにすること」に焦点を当てています。調査結果から、多くの起業家が新しいことを学ぶことに前向きで、自らの力で人生を楽しみたいと望んでいることが分かりました。また、失敗に対する不安や自信の欠如が、多くの有望な起業家に共通する課題でした。幸いなことに世界中の多くの国で、組織や企業がこうした障害を排除するためのプログラムに投資しています。今後、さらに多くの投資が行われることを期待しています。

起業は、人々が自分自身のため、そして家族のためにより良い人生を実現する一つの方法です。起業家はまた、雇用を生み出し、競争を促します。経済の成長を後押しし、コミュニティに機会をもたらします。起業家の考え方や行動について理解しているアムウェイのような企業は、起業家に対する支援や奨励を改善する上で重要な役割を担っています。

アムウェイはこれからも、起業家がビジネスを立ち上げ、成功させる上で、可能な限り最高のチャンスをつかめるよう、アムウェイならではのやり方で支援を続けていきます。起業家は周囲の人々にたくさんの価値をもたらすと信じています。本調査がこの信念をさらに深める一助となることを願っています。



ダグ・デヴォス

社長



スティーブ・ヴァン・アンデル

会長

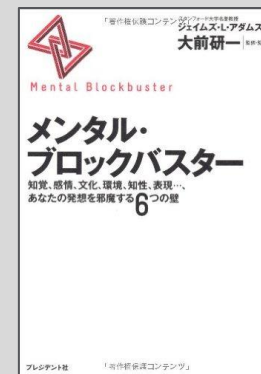
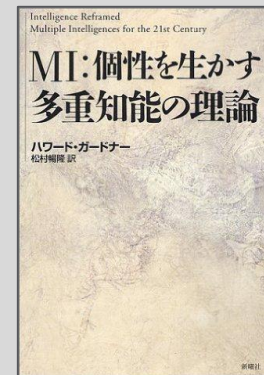
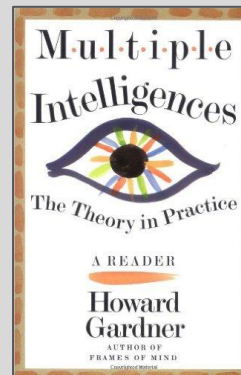
参考文献

マルチプル・インテリジェンス

- ハワード・ガードナー (1983年) 「Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligences」, Basic Books
- ハワード・ガードナー (2001年) 「MI:個性を活かす多重知能の理論」松村 暢隆 訳, 新曜社

メンタルブロック

- ジェイムス・L・アダムス(1997年) “Individual and Small Group Creativity”, Journal of Engineering Education, pp 100-131
- ジェイムス・L・アダムス(2013年)「メンタル・ブロックバスター」大前研一 監修、監訳, プレジデント社



The Amway logo is centered on the page. It features the word "Amway" in a bold, white, sans-serif font. A white swoosh underline is positioned beneath the letters "a", "m", and "w". The background of the entire slide is a solid blue color with a faint, light blue world map pattern.

本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先

AGER広報事務局（コスモ・ピーアール内）担当：佐藤

Tel: 03-5561-2915 / Fax: 03-5561-2912 Email: ager@cosmopr.co.jp